# 侵襲的人工呼吸管理中に生じた人工呼吸器関連肺炎の実態に関する後ろ向き観察研究

## 研究へのご協力のお願い

当院では、最新の(最善の)医療を患者さんに提供するとともに、より良い治療法や診断法などを開発するための臨床研究を行っています。患者さんに参加していただいて、治療方法や診断方法が有効であるか、あるいは安全であるかを調べることを臨床研究といいます。

## 研究の背景

人工呼吸器関連肺炎は人工呼吸管理を受けて 48 時間以上経過してから新たに生じた肺炎と定義されます。人工呼吸器関連肺炎は人工呼吸管理を受けている患者の生命予後に最も大きな影響を与える因子であり、その治療および予防は集中治療管理において重要な課題です。

一般的に、肺炎の診断は発熱、呼吸器症状、胸部画像検査および検体検査所見から総合的に行われますが、人工呼吸器関連肺炎の診断は上記を組み合わせても容易ではありません。これは、症状が分かりにくい上、人工呼吸器関連肺炎が生じていなくても胸部X線や検体検査で異常所見が出現することが多いためです。人工呼吸器関連肺炎の治療が遅れると生命予後に悪影響が生じる一方、過剰な抗生剤治療によりその後の耐性菌感染症のリスクも高めてしまう可能性があり、適切に抗生剤治療を行うことも難しいです。このため、集中治療管理において人工呼吸器関連肺炎の発生を予防することに注力すべきです。

人工呼吸器関連肺炎の発生を予防するためには複数の対策をまとめて行う事が有効とされています。今後当院内で人工呼吸器関連肺炎の予防策を継続し、改善していくにあたり、重点的に取り組むべき課題を可視化することが重要と考えました。

そこで本研究では、当院において侵襲的人工呼吸管理中に生じた人工呼吸器関連肺炎の実態を把握するため、後ろ向きに調査を行います。また、調査の過程で生じた課題についてもまとめます。

## 本研究について

この研究は、2021 年 1 月から 2023 年 12 月までに当院で 48 時間以上の侵襲的人工呼吸管理(挿管・または気管切開による気道確保を行ったうえでの人工呼吸管理)を受けた患者さんを対象とします。対象となる患者さんの電子カルテから原疾患、合併症、手術の有無、人工呼吸器の換気設定、人工呼吸管理中の検査データ(血液検査、画像検査、細菌学的検査)、集中治療室の滞在期間、気管切開の有無、入院期間、退院時の転帰などを収集します。過去のデータを収集するため、本研究に参加することで新たに治療・検査が追加されることはありません。この研究で得られた情報により、当院の人工呼吸器関連肺炎の発生状況に関する知見が得られ、今後の人工呼吸器関連肺炎の予防対策に役立つことが期待できます。

## 研究の参加はあなたの自由意志を尊重します

「ご自身のデータを使用されたくない」と思われたときには、あなたのデータを除外しますので以下のお問い合わせ先までご連絡ください。

## プライバシーの保護について

この研究で得られた情報は、医学雑誌などで公表されることがありますが、お名前や個人的な情報は一切わからないようにいたします。また研究中のデータに関しても、外部に漏れないように厳重に管理いたします。

## お問い合わせ先について

この研究についてわからないことや、聞きたいこと、またなにかご心配なことがありましたら、いつでも遠慮なく担当医師におたずねください。

また、病気や怪我などで他の治療を受ける時、より詳細な研究の計画、研究の方法についてお知りになりたいときにも、担当医師までご連絡ください。なお、この研究に参加している方の個人情報や、研究の知的財産などには、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

## 【お問い合わせ先】

独立行政法人国立病院機構　京都医療センター　呼吸器内科
〒612-8555
京都府京都市伏見区深草向畑町 1-1
TEL: 075-641-9161
研究責任者:呼吸器内科　医師　金井　修